

研究会・シンポジウム報告

2015年9月5日（土） 定例研究会報告

テーマ： 「教育破綻からの再生：失敗自治体の学校教育再生プロジェクト
権限剥奪・民営化された教育委員会:ロンドン・ハックニー区のラーニング・
トラストによる教育改革」

報告者： A. Wood (Hackney Learning Trust, CE)、木岡一明（名城大学）、
山下晃一（神戸大学）、広瀬裕子（文）

時間： 2015年9月5日 10:30-17.10

場所： 92A 会議室

参加者数：46名

報告内容概略：

- ・第1部 A. Wood 講演 「教育破綻からの再生：失敗自治体の学校教育再生プロジェクト
権限剥奪・民営化された教育委員会:ロンドン・ハックニー区
のラーニング・トラストによる教育改革」

概要： ロンドンのハックニー区は、多様なエスニシティをかかえる貧困地区で、長期にわたる政治的混乱の中で自治体の行政全体が破綻した。潤沢な教育費を使いあらゆる手を尽くしても自立再生できない区の教育当局（LEA）を、中央政府は、自立再生不可能として失敗認定し、区の教育の全てを非営利民間企業ラーニング・トラストに2002年から10年契約で包括移管するという前代未聞の改革手法を採用した。ラーニング・トラストの下では、強力な改善策が進められた。教員採用と研修の方法、授業運営の方法などの大掛かりな刷新を行い、顕著な改善成果をあげた。

- ・第2部 Wood、木岡、山下、広瀬によるシンポジウム 「地方の教育改革とアセスメント：失敗自治体の教育再生プロジェクトとその評価」

概要： Wood がリードしたハックニーの教育改革には、明確なビジョンの設定、安定性の重視、一流のリーダーの確保、厳格な判断の実施などが特徴としてみられる。この改革を教育評価の観点から、及び日本や米国での教育改革と比較する観点から分析検討が行われた。その中で、ハックニー区の改革は、緊急的状況にある制度疲労を修復する改革ツールとしての性格を持っていたのではないか、という指摘などがなされた。

記：専修大学文学部・広瀬裕子